

## 京都市市民活動総合センター 平成21年度事業報告

指定管理期間が4年目となる今年度は、「公設市民営」の事業モデルを確立・価値発信すると共にし、資源仲介・コーディネート機能を充実させることができた。また、専門家との連携や区役所との連携など、新たな成果の萌芽を見出すことができた。

### 1) 情報収集・発信事業

○情報収集提供事業については一定の質と量を担保し、広く情報を収集し発信することができた。

- ・チラシ設置数: 3,798 件 (653 件増)
- ・ホームページアクセス数: 204,292 件 (74,920 件増)
- ・メールマガジン登録数: 2,306 件 (316 件増)
- ・インフォメーションサービス登録団体数: 766 団体 (110 件)

○ひとまち交流館の4センターでWEBシステムのリニューアルを実施した。その際、アソシエイトと共に情報の発信の方法について検討し、システムに反映した。

○機関紙「ほっとポット」についてはアソシエイトを中心に運営。機関紙の編集・発行だけでなく、配布先の新規開拓や専用WEBの作成、また、一般市民を対象とした交流事業の検討など広がりをみることができた。

- ・機関紙「ほっとポット」配布先(新規開拓分): 75か所(カフェ、商店、書店など)

### 2) 相談

○講座やボランティアコーディネート事業を充実することで、従来相談事業で対応していたものを事業で対応することができた。その為、相談件数は減少したものの、個別相談で対応するもの、事業を通じて対応するもの整理ができ、効率的な運営をはかることができた。

- ・相談件数: 1,440 件 (214 件減)
- ・対応件数: 37,144 件 (6,736 件増)

○内容により他の市民活動団体や分野別センターなどにつなぐことで、相談対応の幅を広げることができた。

○これまでの専門家相談での経験を活かし、専門家と連携して講座を開催することができた。

### 3) エンパワー&インキュベーション

- スモールオフィス入居団体と卒業した団体の自主企画として親睦会を開催。交流だけでなく、スモールオフィスの在り方や卒業後の共同事務所設置に向けた取り組み等が動き出した。
- 初歩講座については、相談等で受けた内容を精査し、講座内容に反映させた。また、講座終了後の相談を充実させることでボランティアコーディネーターやセンターアソシエイトへの参加などにつなげることができた。
  - ・初歩講座参加者数: 246名(39名増)
- マネジメント講座特別編として「助成金シンポジウム」を開催。活動団体だけでなく、助成財団のスタッフも参加してもらうことで、交流が図れた。また、この事業がきっかけとなり、助成金を受ける活動団体も現れた。
  - ・助成金シンポジウム参加者数: 135名
- 活動団体スタッフ(5名)でマネジメント講座のアソシエイトを組織化。次年度の事業開催に向けて取り組むことができた。
- NPO専門家研究会と協力し、実務講座で使用するテキストの見直しを行った。これにより日々の事務に関する相談対応がスムーズに行うことができた。

#### 4) 交流・連携・協働・研究

- ボランティア・市民活動フェスタにて、美術学部の大学生がアソシエイトとして参加。チラシデザインだけでなく、学生の発案による企画(ライブペイント、チャリティー似顔絵など)を実施することができた。
- 京都教育大学附属小学校の総合学習において、市民活動スタッフの派遣などのコーディネーターを実施した。
- 西京区役所と連携し、自治会会長向けの市民活動講座への講師派遣や一部事業のコーディネーターを実施。また、ある自治会より市民活動団体と協働したいと相談があり、次年度モデル事業を実施予定。
- フロアー利用者を中心とした利用者アンケートを実施。昨年を上回る回答数を得ることができた。
  - ・アンケート回収数: 219件(83件増)
- 昨年度に続き、韓国希望製作所よりコメントーターの依頼を受ける。